

QMSの進化の 6つの段階

第1段階 その場しのぎ

- ▶ 紙ベースのソリューション
- ▶ メール&FAXでのコミュニケーション
- ▶ 手動のデータ収集
- ▶ 手動の報告書作成

品質管理が断片化されたプロセスで構成されている

データ収集が紙ベースかつ手動で行われている

コミュニケーションがメールとFAXで行われている

上記が該当する企業は、ビジネスにおいて現実的な判断を下すために品質データを活用できていません

品質データを収集するための電子的な方法は存在するものの、スプレッドシートのみで収集されている可能性がある

品質システムが一部のサプライヤーの管理部門まで拡張されている

コンプライアンスを支援し、効率を向上することに特化した品質管理ソフトウェアがない

第2段階 マネージド

- ▶ 電子的方法でのデータ収集 & スプレッドシート
- ▶ サイロ化された品質プロセス
- ▶ サプライヤー契約
- ▶ 最低限の統合

第3段階 自動化

- ▶ オンプレミス環境に統合済み
- ▶ プロセス基準&効率
- ▶ コンプライアンス重視
- ▶ 全社規模での展開

オンプレミス環境に品質管理ソフトウェアが導入されており、製品コンプライアンスの合理化につながるほぼすべての品質プロセス基準を対象としたガバナンスが確立されている

品質データにはアクセスできるが、意思決定のために利用するのは難しい

QMSソフトウェアは、オンプレミス環境とクラウド環境のハイブリッドで、統合されたSaaSモジュール経由で統合型QMSを通してオンプレミス環境の基幹QMSに機能を追加することでメリットが得られている

これによりサプライヤー、ベンダー、第三者にQMSを安全に拡張できるだけでなく、苦情処理、品質リスク管理、製品登録の追跡、サプライヤーの品質管理などのプロセスをさらに追加できる

第4段階 拡張

- ▶ SaaS/オンプレミス環境
- ▶ ハイブリッド展開
- ▶ 軽減されたインフラストラクチャ
- ▶ サプライヤーの統合

第5段階 コネクテッド

- ▶ SaaS
- ▶ プロセスの統合
- ▶ 品質データの管理
- ▶ 品質レポート&分析
- ▶ 総品質コスト (TCOQ) 重視

ビジネス上の判断につながる可能性のある品質データの報告機能と分析機能が装備された、極めて志向的かつ全社規模で調和の取れた品質管理システム

バリューチェーン全体でサプライヤーとプロセスが統合されている

業界最先端の4.0テクノロジーを活用するクラス最高の品質管理

QMSソフトウェアはクラウドベースで、品質についてプロアクティブ(予防的)かつプレディクティブ(予測的)な判断を下すため、IoTや人工知能(機械学習や自然言語処理)の要素が含まれている

プロセスや製品の逸脱やリアルタイムで不適合を検出するため、製造業務とエンタープライズシステム全体で品質データと意思決定を結び付けることで、企業は業務の安定性、予測可能性、効率を改善する体制を確立している

企業と顧客の両方にとってプラスとなる結果をもたらすため、企業文化の価値のひとつとして全社規模で品質部門が組み込まれており、連携することがスムーズな働き方として受け入れられている

第6段階 プロアクティブ (予防的)

- ▶ 品質4.0
- ▶ IoT、AI、機械学習
- ▶ バリューチェーンの統合&連携
- ▶ システムの相互運用性
- ▶ プロアクティブ(予防的)&プレディクティブ(予測的)な品質
- ▶ 継続的改善

QMSの目標達成を支援する説得力のあるビジネスケースを作成する方法をご確認ください

Honeywell

Sparta Systems

www.spartasystems.jp